



のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C！

令和8年5月29日
横浜市立保土ヶ谷小学校
校長 宮生 和郎

自ら関わり、ともに創るスポーツ祭

～時代の変化を映し出す運動会の形～

校長 宮生 和郎

5月23日、朝方は肌寒さを感じる気温でしたが、後半は陽射しも出て、まずまずのスポーツ祭日和となりました。この時期にWBGT（熱中症予防運動指数）測定器を気にする必要がない日に恵まれたことは本当に幸運でした。当日は多くの保護者や地域の方々にお越しいただき、盛況のうちに全校なかよしスポーツ祭を終えることができました。当日の温かいご声援、そして開催に至るまでのご協力、誠にありがとうございました。

今年は例年以上に子どもたちの出番が多かったように思います。開閉会式の言葉や進行、アナウンス、応援団を中心とした声援、用具係などの係活動など、さまざまな場面で活躍が見られました。種目と種目の間にも役割を果たそうと素早く動き回る姿に、子どもたちの並々ならぬ意欲を感じました。また、低・中・高学年のブロックごとの音楽と調和した演技にも迫力があり、目を奪われました。各ブロックとも実行委員会が演目や構成に携わり、4月から約10時間の練習時間でやり遂げました。もちろん発達段階に応じて教師が主導になる場面もありますが、子どもたちが何らかの形で自ら工夫し参加する機会が増えたことは、当日の動きの変化にも表れていたのではないのでしょうか。



【5,6年生の演技のラストシーン】

ここ数年、気候の変化や感染症対策、子どもの体力面の変化などにより、運動会の形は大きく変わってきました。特に大きく変わったのが開催時間です。以前は昼食を挟んで午後2時半ごろまで行っていました。さらに昔（私が小学生の頃）には開会式での全体行進があり、水をあまり飲んではいけないという誤った認識が当たり前のよう存在していました。種目数も多く、進行が延びると午後3時ごろに閉会式となることもありましたが。コロナ禍では感染予防のために内容を精選してきましたが、現在は特に暑さ対策の観点から、気温が上がる前の午前中に実施するようになりました。また、待ち時間を減らし、体力的な負担を軽減する方向へと変化してきました。

そして安全面とともに大切にしているのが、子ども自ら関わり、仲間と共に工夫して創り上げていく「共創」の感覚です。さらに自分の意見や発想が生かされることで、達成感や実現の喜びを実感できることも大切にしています。閉会式での代表児童（4年生）の言葉「勝って喜んだことも、負けて悔しかったことも大切な思い出です。その気持ちをこれからの生活に生かしていきましょう。」は全校児童の心を改めて一つにしてくれたと思いました。